第２回四日市市総合計画策定委員会　会議録

■日時：平成 30 年 12 月 18 日（火）13：30～15：40
■場所：四日市商工会議所　３階大会議室
■出席者：
林良嗣委員（委員長）、種橋潤治委員（副委員長）、甘利正晴委員、荒木栄里子委員、上野尚子委員、尾崎彰委員、田中幸司委員、田端文音委員、野村愛一郎委員、前田明子委員、増沢陽子委員、水谷重信委員、水谷孝子委員、森寺浩一委員、山下智香委員、山原裕美委員、渡邉勝幸委員
■欠席者：
岸村吉偉委員、杉浦礼子委員、宮西マリア委員、藤井信雄委員、
■議事：
１．現総合計画の検証・総括および将来に向けた検討課題について
２．その他

１．現総合計画の検証・総括および将来に向けた検討課題について

委　員　長　・事務局から説明いただいた資料４を中心に、次の世代がどうなっていくかという視点を含めて議論をしたい。突拍子もないくらいの意見を出していただきたい。
・現総合計画は、基本目標として５つのテーマを設けている。まず、「基本目標１」から議論を始めたいと考えているが、私の専門分野でもあるので少し話をさせていただきたい。
・１つ目は、「コンパクトなまちづくり」とあるが、まちをコンパクトにする前に、今を生きる世代が、誇りを持てる街並みを創っておかなければならない。そうした良質な都市のストックをつくることで、コンパクト＆ネットワークを兼ね備えたまちづくりが実現できると考えている。
・２つ目は、リニアの開通により「つながる」ことには、良いことと悪いことがある。自分のまちに受け皿となる装置や仕組みをつくっておかないと、様々なものが吸い出されてしまう心配がある。このタイミングに合わせて、中心市街地の活性化や文化の再生に取り組むべきである。
・３つ目は、今後の検討課題に「良質な住宅ストックや宅地を活用した、住み替えや多世代居住促進策の検討」をあげているが、「住宅ストック」を「街区ストック」と表現して欲しい。つまり、住宅単体ではなく、街区全体を良くするという発想に切り替えないと、個々に何回建て直しをしても、まち並みがバラバラになってしまう。

委　員　Ｋ　・「リニア開通を見据えた近鉄四日市周辺等整備事業の着手」と書いてあるが、リニア整備に関連するのであれば、近鉄四日市に限らず、近鉄・ＪＲの両方と

も名古屋からつながっていることから、両方を手掛けていくべきではないか。

委　員　C　・「都市と環境が調和するまち」ということで、都市機能の集約と農地・森林等の保全について。例えば４ページの右のところで、「農家の減少に対応する農村集落の維持」と書いてあるが、都市機能を集約しつつ、かつ農村集落も維持していくことは、多少方向性が違うことを同時に記載していると感じた。

・全てを満たすことはできないので、都市機能を集約するのであれば、環境面も含めた農村・森林の機能を維持しつつ、人が住むことに関しては、もう少し都市に集中させてしまうことを段階的に考えていく必要があると思う。

委　員　長　・その時に「じゃあ、どこかを見捨てるのか」という話が必ず出るが、そうではなくて、次の世代の人口規模などを考えた時に、どこまでを都市として使うかという、エコロジカルフィットというような概念がある。

・自分たちが生活に使う土地は、住むだけではなく、食べるものを作ることなどをうまく集約しながら考える必要がある。

・その上で移転しなければならない場所が出てきたときは、市民全体でサポートするということも含めてバランスを取っていくべきである。

委　員　J　・４ページの農業のことで、「農業従事者」や「農作業全般」という言葉が一括りに出てくるが、稲作と野菜では状況が異なっている。また、ＧＰＳ付きのマルチロボット・トラクターを農地が広大な北海道では動かすことができても、四日市の規模の農場には合わないといった面もある。

事　務　局　・先ほどご意見をいただいた農業集落の維持とコンパクトシティについて補足説明すると、本市は都市マスタープランに基づき、市内の人口を市街化区域に誘導していくという大きな流れはもっている。

・一方で、市内西部にはたくさんの農地が広がっており、それらの農地を守っている農業者の方々の多くは既存集落に住まわれている。無秩序な開発は行うべきでないが、既存の農村集落の中で、農業の跡継ぎや新たに農業をする人を迎えて農地を維持していただくため、地域を維持するためのサポートは必要と考えている。

委　員　長　・最近、自動運転に関するニュースが盛んに出てきているが、大都市の渋滞を、自動運転をうまく活用して事故を起こらないようにするという方法と、人口が減少している過疎地域では従来型のバスを走らせるのは経営上成り立たないことから、利用者が自由に選択して目的ごとに乗車できるようにするという活用方法が考えられる。どちらも、かなり近い将来に実現するかもしれない。

・そうすると、現状の交通システムを前提にしてコンパクトシティを考えると、移動手段は車・バス・電車ぐらいに限られてしまうが、それらの間をつなぐものが出てくることによって社会が変わってくるので、「こういう展開もあり得る」ということをどんどん話していただきたい。

委　員　N　・地域で自治会活動をしているが、農地の拡大と集約化について話をしたい。現在、四日市市の農業を担っている大半は兼業農家である。農家の採算性はもう

マイナスになっており、先祖代々の土地を守るために資金を調達しながら農業を続けている。経済的なメリットがなければ続けられないため、中間管理者に農地を集約して耕作を任せる形になる。

・一方で、中間管理者にしても、水稲では利水設備や周辺の農業基盤が整備されていないと担っていくことが難しいため、これらの問題を総合的に考えないと、お題目だけでなかなか前に進まない。

委　員　Ｂ　・私も農業に携わっているが、本当に農家に跡継ぎがいると言えるのか疑問である。営農規模が大きくない農家にとって、田地・田畑をどうやって守るのか。私の周りには「今度、機械が壊れたらもう辞めよう」という人ばかりである。それでも、今までなんとか続いてきたのは、減反政策に基づく補助金制度があったからである。

・私の住む川島町には、ウルグアイラウンド対策で開発された農地が７００町歩もあり、三重用水が整備されているため、田んぼも畑も耕作できるが、それでも全体の２０％くらいしか使われていない。これが、四日市の農業の現状であるので、その辺りを踏まえてもっと政策を推し進めないと、ますます難しい状況になる。

委　員　長　・続いて、２番目の基本目標「いきいきと働ける集いと交流のまち」について、皆さんのご意見をいただきたい。

委　員　Ｋ　・今後、ＩｏＴ、ＩＣＴ、ＡＩといった最先端技術の需要が非常に高まってくる。その流れにおいては電力の供給が重要になってくるほか、産業界・経済界同士や行政との連携、それから一般市民との連携が重要になってくる。

・来年の２月頃に、東京大学の三重サテライトが四日市にでき、三重大学の北勢サテライトも四日市にできる。さらに、ＡＭＩＣという県の産業支援センターの下部組織も移転してくる。こういった連携体制も生かして、計画の中にどう盛り込んでいくかが非常に重要になってくる。

・もう一つは、８ページの拠点施設だが、中心市街地にたくさん来る観光客に、地域の名産品を手に取ってもらいたいと思っている。そのためには、まちの中心にあるべき「じばさん」が西の外れにある現状について、改めて考える必要がある。

委　員　Ｄ　・中小企業の立場から言うと、経済活動につながる各機関との連携は非常に重視しており、ポリティックセンターなどの教育機関との連携も大切である。

・近隣から人がたくさん集まってくる状況の中では、生産性だけにこだわらず、市内で働く従業員がいきいきと働けるよう、既存の企業間で交流・連携しながら施策を組み上げていくことが、一つの有用な方策となりうる。

委　員　長　・交流という視点では、国際交流も非常に重要である。四日市の環境について、公害克服から工場夜景観光まで展開してきたなかで、外国人観光客の人たちにどう四日市に来ていただくかが課題である。名所を回遊できる仕組みがあると

良く、また、市民は大入道や鯨船などに思い入れがあると思うので、それらと組み合わせていってはどうか。さらに、東芝メモリ四日市工場や富士電機と連携して、工場見学などの産業観光にもつなげられればいい。

委　員　M　・私は、四日市大学の総合政策学部２年生で、将来、地域まちづくりに関わっていきたいという思いから参加している。意見は幼かったりするかもしれないが、若者からの意見ということでご理解いただきたい。

・９ページに関連して、私は今年度、「地域づくりマスター養成講座」を受講したが、２，３０人ほどの受講者のうち若者は私ともう一人だけだった。地域づくりの担い手やリーダーをつくる講座で、年齢層には偏りがあり、多様な層が参加できていないと感じた。

委　員　H　・私はかねがね、市の総合計画でいろんな人の要望を全て叶えることは無理で、全てを完結しなくても良いと思っていた。そうしないと、検討にいくら時間があっても足りなくなる。

・市民が誇りに思うようなシンボリックなものを作ってコンパクト化を進めていくべきである。

・また、他都市と連携をしていくべきという委員長の考え方は重要だと思う。私も四日市で物を買ったり、食べたり飲んだりしているが、交通が便利になったので、最近は名古屋や京都へ行く機会が増えた。四日市でたくさんお金を使おうと思う一方、他都市のいいところも楽しむという生活スタイルは、将来、交通ネットワークが進むほど増えると思う。四日市で全てを完結させるのではなく、他都市と連携しながら暮らせばいいという考えは重要である。

・８ページ目の①の３つ目の星印、「現代版宿場町として中心市街地の魅力的な景観、空間づくりを検討する体制づくり」について、「体制づくり」が何を指しているのかがよく分からない。

・今後、くすの木パーキングを管理しているディア四日市が５～６年で債務を完済するため、その後はまちづくり会社の役割を担うことができるようになる。今のところは駐車場しか経営していないが、まちづくり会社としての機能を強化していけば、財政的にも自立してくる。これまでは、行政がまちづくりやストック形成を担ってきたが限界がきている。全国的に見ても、成功している事例は、民間のまちづくり会社が活躍しているので、次の１０年間では、ディア四日市の機能強化を確実に図るべきである。

・３つ目の○について、③の星印で、「各地域の既存商店街や商店等を地域が支えられる仕組みづくりの検討」とあるが、非常に難しい課題だと思っている。四日市は夜のまちとして駅前は賑わっているが、昼間は賑わいのない状態になっている。このことから、昼の賑わいを商店街で担えるのか。まちという考え方で、商店というのが成り立つのかどうか疑問を感じている。ましてや、インターネットで何でも買える今の時代に、本当に既存の商店街が残り得るのかどうか、大きな課題と考えており、自分自身も研究をしていきたい。

委　員　長　・先ほど、ストックの話をしたが、人口の関係につながることでもう一つ話をしたい。都市を街区単位で見たとき、街区の中の建物が何年かに１回建て直される。日本の場合、住宅の平均寿命は非常に短く、３０年前後ですぐ壊すために、街区として定着した景観がない。おそらく戦前には、伝統的な町並みがあったのだが、今はどこに合わせていいか基準がない。そういうものを再創造する最後のチャンスだと思っている。

・私が提案しているのは、街区単位の地主同士で３０年後の街区デザインを話し合い、隣棟との間隔や緑の量、低炭素化の取組などで評価を行うという取組である。このデザインに基づいて、約３０年間で一通り建替えが進むと、良い景観ができるという考え方である。ちなみに、フランスのパリでは、評価が高い街区に固定資産税を無償化するなどのインセンティブを与えている。

委　員　長　・次の３番目のテーマに移りたい。交通、公安、防災について「誰もが自由に移動しやすい、安全に暮らせるまち」についてご意見をいただきたい。

委　員　Ｌ　・今、自動運転やＡＩを活用した公共交通に関する実証実験が全国的に様々な形で進められている。四日市でも、ＡＩを活用した自動運転を渋滞対策や過疎地での移動手段の確保など、どのように組み込んでいくかということが議論になると思う。わが社でも運転手不足を自動運転でカバーできないかを検討することになるだろう。

・全国的には人口減少が続くなかで、四日市は元気ではあるが、県内の他都市では人口が減少し、空き家が目立っている。隣接した都市との交通動線について連携を意識しながら、移動の円滑化を図っていくべきである。

委　員　Ｈ　・交通に関連して皆さんの意見を聞きたい。ちょっと物議を醸し出すかもしれないが、移動手段として車やバスもあるけれども、ウーバーに代表される、いわゆる民間の車を簡単にタクシー代わりに使えるようにすることが世界的な潮流となっている。

・この問題については、タクシー業界では誰が競争相手かということをこれから考えていくことになる。今の日本では白タク行為で違法であるが、一方で、世界的には非常に便利に使われている。

・また、将来的にはカーシェアが普及すると思う。これもタクシー業界には非常に脅威だが、おそらく今後１０年の間にはカーシェアやウーバーのようなビジネスが増えてくると思われるので、これらを想定したまちづくりや交通体系を考えていくのかどうか、どこかで触れておく必要があるのではないか。

委　員　長　・私は現在、タイのバンコクで現地の都庁や交通局と一緒に、「時間軸で全部、交通を賄う」というプロジェクトを行っている。バンコクは大渋滞で有名だったが、２５年前に鉄道を導入したことで渋滞が解消した。しかし最近は豊かになり、市民が自動車を乗り回すようになったため渋滞問題が再燃している。

・そこで、車を使うか、電車で出かけるか、あるいはバスに乗るべきか、出発時

刻や行き先などから最適な交通手段を選択できるようマネジメントする取組を進めようとしている。

・また、自動運転やカーシェアを使った「パーク＆レント」が、これから世界で普及していく中で、四日市にだけそれが入ってこないというのは不自然である。今後の５年で社会が変わっていくと思われるが、将来的な課題として総合計画への位置付けを考えていくべきである。

委　員　Ｋ　・１２ページ、「港町としての魅力的な都市空間の創造」について、市政アンケートでは港づくりに対する市民の関心度が低い。今後、霞地区は物流機能の強化、四日市地区ではまちづくりと一体化した港づくりをやっていかなければならないと思う。そのためには、もう少し詳細を議論していく必要がある。

委　員　Ｆ　・港というと、私が若いころの横浜港は非常に汚かったイメージがあるが、今では「横浜みなとみらい２１」としてきれいに再開発されている。一定規模の港ではテーマ性を持った整備が行われていると思う。

・港としては、荷主企業や船会社に選ばれるようなサービスの提供が本業であるとは思うが、せっかく四日市に港があるので、潮の香りを嗅いでロマンを感じられるような、つい行ってみたくなるような整備を期待したい。

委　員　Ｐ　・３ページの公園について、健康づくりや交流の場など、いろんな面での賑わいがあると思う。また防災などに対応した公園整備というのも必要である。例えば、南部丘陵公園にはベンチとかトイレが整備され、屋根付きの場所もあるので、もし震災が起きても、避難した方が一夜過ごせるようになっている。そういった環境整備を含めた公園のあり方を考えるべきである。

・また、公園の機能として、健康づくりをはじめ、子供から高齢者まで、多世代が多目的に利用できる公園として、もう少し魅力ある公園づくりができないかと思っている。

・港や東海道など四日市の魅力をウォーキングしながら楽しめることが望ましいが、実際に東海道を歩くと、電信柱と自動車の通行で安全に歩きづらいのが実情である。安心・安全に楽しめるまちづくり、空間・道路の整備が進むとよい。

委　員　長　・「多世代スポーツ公園」みたいなイメージで、しかも、防災にも使えるということで、何かいいキャッチフレーズができるといいと思う。

委　員　Ｒ　・１０ページにリニア開通について記載があるが、個人的にはリニア開通後、四日市が取り残されるのではないかと思っている。リニア利用者は、わざわざ四日市で降りずに、リニアが停まる駅や新幹線のこだまが停まるような観光地に流れてしまうのではないかと危惧している。

・四日市が素通りされないための強みづくりが何か必要だと思う。

委　員　長　・四日市独自のものをどうやってつくってアピールするか。先ほどのコンビナート観光は、他のリニア停車駅にはない。名古屋に来たときに来てもらうとか、あるいはセントレアから来てもらうことはあり得ると思う。本当にそういう工夫をしていかないと、リニアが近くに来るというのは、むしろ危ないというこ

とになる。

委　員　Ｐ　・9ページの③団体や人が連携するというところで、星印で出ているところに「プロボノ活動を活性化させるための施策の推進」と書かれているが、こういった支援もいいが、四日市のさまざまな団体が連携するためのネットワークを構築し、「ここの団体はこういう活動で支援できる人が多い」といった情報などを発信し、手軽に利用できるような環境づくりを進めていただくといいと思う。

委　員　長　・テーマ４に移りたい。「市民が支えあい健康で自分らしく暮らせるまち」というところでご意見をいただきたい。

委　員　Ａ　・１４ページの「小１の壁」突破に向けた放課後児童の居場所づくりについて。「需要が増大する学童保育所への支援のあり方の検討」について、四日市市の方針は民設民営なので、特徴ある放課後児童クラブづくりはできたとしても、一方では指導員の確保などの課題がある。

・また、長い間、小学校の敷地内には学童保育所をつくらない方針だったが、子ども・子育て支援法の趣旨に沿っていくことが課題であり、市としての支援のあり方や責任を明確にすることが重要である。

・２点目の「学校改修計画など待機児童解消のための施設確保」については、学校の改良だけではなく、公立幼稚園の施設なども含め、もう少し具体的に考えていくべきである。

・よりよい居場所づくりができるよう、民間、あるいは地域が経営していくなかでどのようにバランスを取るかということも、非常に大切であると思う。

委　員　Ｏ　・１４ページの「小１の壁」について。子どもが小学校に入学すると早く家に帰ってくるため、仕事を続けたいと思っていても、介護職員の多くがそのタイミングで辞めていってしまう。そのため、学童保育の必要性を非常に感じている。

委　員　Ｒ　・私は、「連携」や「交流」というのが一番必要だと思っている。例えば、近鉄とＪＲも単体ではなく、他と連携してやらないといけないと思うし、農業もＡＩや機械が合わさって良くなっていくものだと思う。

・「小１の壁」とか、高齢化というところも、高齢者の介護施設や学童保育所で、小さい子とお年寄りが一緒に遊んだり宿題をしたりということができたらと思っている。実施するのは難しいと思うが、市がプロジェクトなどをつくって、いろんな企業や学校を巻き込んで進めていただくことが望ましい。

委　員　長　・子どもと高齢者が一緒に居ることは、昔ながらのコミュニティでも重要であったことを思い返した。子育てでも、子どもと親だけでは足りないものがいっぱいあるので、知恵のシェアということができるのではないか。

・都市計画の手法として、よくコミュニティの単位が重要だと言われるが、どういう単位が重要かということを考え直してみることも必要ではないかと思う。最初はプロジェクト的にやらないと難しいかもしれないが、学生さんもいるので、四日市大学などに加わっていただけるとありがたい。

委　員　Ｋ　・１７ページ、高齢者と子どもの見守りについて。子どもに対しては、学童保育所を含めて、見守り体制・システムをどう構築していくかが非常に重要だと思う。また、一人暮らしの高齢者が増えるなかで、社会的にどういうシステムで見守るかが重要であり、ＩＣＴの活用というものも検討しなければならない。

・もう一つ、１５ページの医療体制の整備について。これから考えていかなければならないのは、医療従事者の働き方である。社会として医療従事者の過剰労働を避けるようなシステムを考えていかなければならないと思う。

委　員　Ｉ　・私の団体は、市の委託でファミリーサポート・センター事業を２０年近くしているが、「高齢者と子どもを一緒に」というのは幻想という実感がある。例えば、子どもの人権について高齢者がたくさん受講している熟年大学で話しをしているが、ファミリーサポート・センター事業の援助会員の講習会にはわずかしか参加してくれない。また、私は認知症カフェにも携わっており、ある子育て支援センターとクリスマス会を共同開催しようと計画しているが、そこでもなかなか若い人とお年寄りが相互に交流しようという感じにはならない。

・子どもをまちぐるみで育てていく、関わっていくということを、もっと考えなくてはいけない。学童だけではなく、幼稚園、保育園も足りないため、子どもにとって必ずしもいいと思えない環境の園も認可されている。

・自立した精神的にも満たされた子ども時代を送って大人になっていくことができる環境整備を真剣に考えていかないといけない。だから、私は子どもの権利条約に謳われているような、さまざまな環境を子どもたちに提供できるようにしていかないと、次代を支える人材が育たないのではないかなと思っている。

委　員　Ｐ　・私もコミュニティスクールの運営協議会に参加しているが、協議会と地域の人たちとのつながりをつくり、子どもたちに元気になってもらい、笑顔をつくっていこうという取組を進めようとしている。現に、ボランティアクラブということで、お年寄りの方が子どもたちに昔遊びのやり方とか、ものづくりとか、あるいは私どもはニュースポーツを教えたりしている。地域の高齢者と小学校４年生以上が交流をして、高齢者への感謝の会を開く流れにもなっている。

・先日、文部科学省主催のコミュニティスクールのフォーラムに行ってきたが、その中でも何かをつなげていこう、何かを生み出す、みんなで真剣に考えようということをしていた。子どもたちの元気や笑顔をつくるためにどうしたらいいだろうかということを真剣に考えている。そういった環境づくり、支援する体制づくりが必要だと思う。

委　員　Ｆ　・１４ページ。人口がどんどん減っていくことが最大の課題であるが、自然増につながるような長期的に取組む課題は行政にしかできないことなので、中身はこれから真剣に考えるとしても、選択と集中により、四日市を子育てしやすい環境にしていかなければならない。

・１６ページにある、健康寿命ということで、最近、ＰＰＫ（ピンピンコロリ）とＮＮＫ（ネンネンコロリ）などといわれるが、「住めば健康になるまちづく

りの推進」というフレーズだけでなく、施策をしっかりと推進する必要がある。

・また、栄養の問題について、愛知県の方で大規模な調査があったが、高齢者の６割以上が栄養失調ということがわかった。特に単身高齢者が要注意で、食育というのが非常に大事である。

・私どもは市内の公園１５箇所で運動健康づくりをやっているが、公園の状態もさまざまである。行政がすべてきれいにすることは無理としても、きちんと利活用できるような維持管理をしていただきたい。

・元気に過ごすことができ、最終的に医療費や介護費を抑制していければ、一歩二歩と進んでいくのではないか。

委　員　長　・全体的な意図は良いとして、仕組みの設計や仕掛け方について考える必要があると思う。

委　員　長　・それでは最後の５番のテーマ「教育・文化・スポーツ・生涯学習」に入りたい。

委　員　Ｔ　・１９ページの１番で、「高校・大学生などの若い担い手の参加と文化活動を通じた、多世代交流」という、文化に関することが書いてあるが、三浜文化会館が整備されたことで、芸術活動の練習場所が随分確保しやすくなった。

・国体に向けてスポーツ施設は随分充実した。国体レベルの大会ができるような環境が整えられたことは四日市の誇りになるし、集客にもつながると思う。

・一方で、スポーツとの両輪になる文化について、多世代が様々な文化を自分の中に育んでいるが、発表の場所がないと、途中で「まあ、そこまでにしておくか」ということになってしまう。

・四日市は文化活動の発表の場が不足しており、現在、文化会館のホールも吊り天井工事で使えない状況であるので、300 人規模でよいので第２文化会館として発表の場をつくっていただきたい。なお、活動団体の規模が小さくなってきているので、発表の場は今までより小さくていいが、市民センターでは足りないという趣旨である。各団体が自分たちのペースで発表していきたいと思った時に手ごろな大きさの発表の場があれば、「住めば健康になるまちづくり」にも貢献するのではないか。

委　員　Ｎ　・現在は、人と人とがつながれる、向こう３件両隣の関係が薄らいでいる。地域に住む者のまちづくりを重点とした、横のつながりをもった活動をしていかないといけない。そのためのリーダー養成ということで、行政からもマイスター養成講座とか、リーダー発掘のような取り組みはしているが、男性がそういうようなところへ出てくることが非常に少ない。

・能力のあるリタイア層を宝の持ち腐れにしないためにも、企業によるセカンドキャリア教育などを通して、50 歳を超えた男性が地域社会に出てこられるよう道筋をつけていくべきだと思う。

・「特殊な技能を持っておられる方はその場所で働ける」というように、住んでいるまちで活動をしていけるような形をつくっていくべきである。

委　員　Ｉ　・20 年ほど前から子育て支援の必要性が言われているが、子育て支援が社会的な課題になってきたのは、お母さんたちが、「子どもをどうやって育てていいかわからない」という不安が蔓延してきたということがきっかけだと思う。特に、「虐待に走る」ことが一番問題で、今はお母さんたちにはいろんな居場所があって、そこにいる間は助けられるが、反面、社会に対して自分がどう責任を持つかということが醸成されないまま、会社や地域社会に戻っていく。こういったところが、子育て支援の難しさだと思う。

・アメリカの統計で、子ども時代に社会といかに関わったかが、のちに社会とどう関わるか影響があるといった調査結果があるらしいが、男性・女性それぞれに固定的な役割意識を植えつけてしまうと、社会との適合が難しくなるのではないか。

・様々な理由があって、一人親になってすごく頑張っている人もいるが、頑張っていても貧困や忙しさのあまり、どうしても子どもにいろんな家庭生活を教えることにまで手が回らなかったりする。子ども時代にどのような家庭生活を営んできたか、どのように愛着形成をするかということが、すごく大切と思う。

・親は子供に理想を追い求めがちであるが、現実とのギャップが生じると、それが虐待の原因になることがある。そうした悩みに対する支援が望まれる。

委　員　Ｃ　・ＪＲ四日市駅と近鉄四日市駅の間がメイン通りだと思うが、人の歩く距離や時間感覚を交えたヒューマンスケールの点で、今後の方向性の出し方が難しいように思えるが、この通りをどうしていくかは課題だと思う。

・総合計画ということで、市域全体に均衡ある発展を目指す考えがあるかもしれないが、文化施設や交通機関などを含めて一点に投資を集中してしまうという考え方もあると思う。集積することで人が集まり、いろんな情報やネットワークが生まれてくると思う。

委　員　Ｐ　・２０ページ①の○の２つ目について、「総合型スポーツクラブの維持」と「広域化などへの支援」が謳われているが、スポーツクラブの役員はボランティアで、事務所も間借りでやっているため居場所がない。役員をすることへの魅力を感じづらく、「自分たちのクラブ」という意識も持ちづらい状況にあるので、スポーツクラブを維持するための積極的な支援に継続的に取り組んでいただきたい。

委　員　Ａ　・１８ページの「ＡＩでは補えない人間力を育てる教育」に関して、「生きる力、コミュニケーション力、自己肯定感の育成」は、これからの時代ではものすごく大切なことだと思っている。

・１７ページ「増加する子ども、高齢者へのＤＶなど、様々な精神的・身体的虐待防止」の一番下に「デートＤＶ予防教育出前講座の全校実施等の若年層への啓発」が挙げられているが、デートＤＶを無くしていくためには、体験や教育がすごく重要である。それらを進めていくためには、実施団体と学校が連携できないとうまくいかないので、専門性のある団体の活動を生かせるようなシス

テムが必要である。

委　員　F　・１８ページの「④教職員の多忙化を解消し、子どもに向き合う時間を確保するための体制づくり」について、私が学生の頃は先生といろいろと相談をしていたが、今の先生は忙しすぎると思う。先生が子どもと向き合う時間をもう少しとれるようにしていただきたいと思う。

委　員　H　・１９ページに関連して、先ほど文化の発表の場がないという話があったが、まちなかの商店街には、人が交流できる場、例えば、演芸場や文化的な発表の場が必要だと思う。「既存の商店街の空き店舗などを活用した、身近な空間での文化活動の場づくり」とあるが、空き店舗を活用するのではなく、もう少し中規模的な場が必要ではないか。

・１５ページの医療について、最近の市立四日市病院はがんばっているが、数年前に私が病気したときには対応できず、県外の病院で診てもらうことになった。四日市市の中核的な病院なので、他市に負けないよう、救急医療体制をさらに充実していただきたい。

・１４ページの子育てについて、私は２０年ほど前にＰＴＡ会長をやったが、その時、参加者のほとんどが母親であった。やはり子どもには多様な人が関わり合って、様々な教え方、叱り方、接し方などがあった方がいいし、一つの価値観や一つの知恵だけに集約されるより、より多くの考え方と接していく時代にしていくべきだと思う。父親が参加しやすいイベントが増えるとよい。

委　員　B　・防災に関して、横断的に２～３のことを挙げたい。

・災害に対して、状況に応じた素早い対応ができるよう、「どういう状況になったら、どういう対応をする」というタイムラインを確立するべきである。

・仮設住宅は必ず必要になるので、200 戸という計画戸数の規模は妥当か検証した上で、建設場所と戸数を想定して備えていくことをお願いしたい。

・川島小学校では１年生を対象に「水」というテーマで、地区の防災協議会が出張授業を行っている。地域で防災に関わる各団体が学校へ入って教育しているので、ぜひそれらを継続的に実施するようにしていただきたい。

委　員　M　・全体的な話として、いろんなところと関わるとか、横のつながりという話があったが、学生が意見を述べる機会が少なく、若い世代の考えが通らずに社会ができてしまっている印象がある。

・四日市駅の近くは飲み屋が多く、遊べるところはあまりないと感じているが、そのことを伝える機会がない。今後、多様な交流の中で、若い世代の意見が出てくる環境づくりが大事だと思う。

委　員　長　・それでは予定の時間も過ぎたので、この辺りで、今日の議論を終了します。

３　その他

・次回委員会を 3/11(月)10：00～12：00 で開催。

以上